

児童の主体的な学びを促す小学部国語の授業

～体験を通して言葉とイメージを結び付け、読みを促す授業実践について～

四方田 愛美 (熊本大学教育学部附属特別支援学校)
干川 隆 (熊本大学大学院教育学研究科)

藤田 豊 (熊本大学大学院人文社会科学研究部)
仁野平 智明 (熊本大学大学院教育学研究科)

1 対象児童について

学習グループ

2段階

共通の実態

5年 Aくん

6年 Bくん

得意 : ○聞くことが得意で豊富な話し言葉を持つ。
○絵や写真を見て名称が言える。
不得意 : ▲「読み」の記憶が消えやすい。
▲話し言葉の意味理解は不十分
▲周囲の状況や、自分の関心事に衝動的に動き、行動の調整が難しい。

4月当初の「読み」の実態(プロフィールシートから)

5年 Aくん 平仮名4文字程度

6年 Bくん 平仮名5文字程度、数字12まで

昨年度の学習の履歴(個別の指導計画等から)

・単語の選択(イラストや見本の文字を手掛かりに)

教育的ニーズ

コミュニケーションの広がり、豊かな社会生活へ

読める文字が増える、言葉の意味理解

2 仮説

キーワード：実体験、読みの定着を促すための書く活動

- 興味・関心の高い事物を用いて実体験し、強い印象を得ることによって言葉や文字に興味を持ち、主体的な学びにつながるのではないかな。
- 書くことで平仮名のつくりの焦点を当て、書く喜びを味わうことで、読める平仮名が増えるのではないかな。

3 題材について

題材名 「動きを表すことば、様子を表すことば」

目標 Mシートより

知識及び技能

・動きや様子を表す言葉に触れ、その言葉を構成する平仮名を読むことができる。
・動きや様子を文字で表すことができることを知り、簡単な平仮名をなぞったり書いたりすることができる。

知

思考力・判断力・表現力等

・動きや様子を体験し、知っている言葉と結びつけることができる。
・知っている平仮名を手がかりに単語を選ぶことができる。

思

学びに向かう力、人間性等

・身近な事物を表す言葉やその体験に興味を持ち、進んで文字を読んだり書いたりしようとする。

学

学習活動

- 動詞や形容詞を具体的活動で体験的に学び、概念を形成する。
- 単語を構成する平仮名を書いたり読んだりする。
- 平仮名に着目して単語を選ぶ。

取り扱った言葉(例)

興味・関心の高い「食べ物」
いくつかの要素イメージを深める

	味	色	形態	感触
きもち	からい	あかい		
せんべい		ちやいろ	まるい	かたい

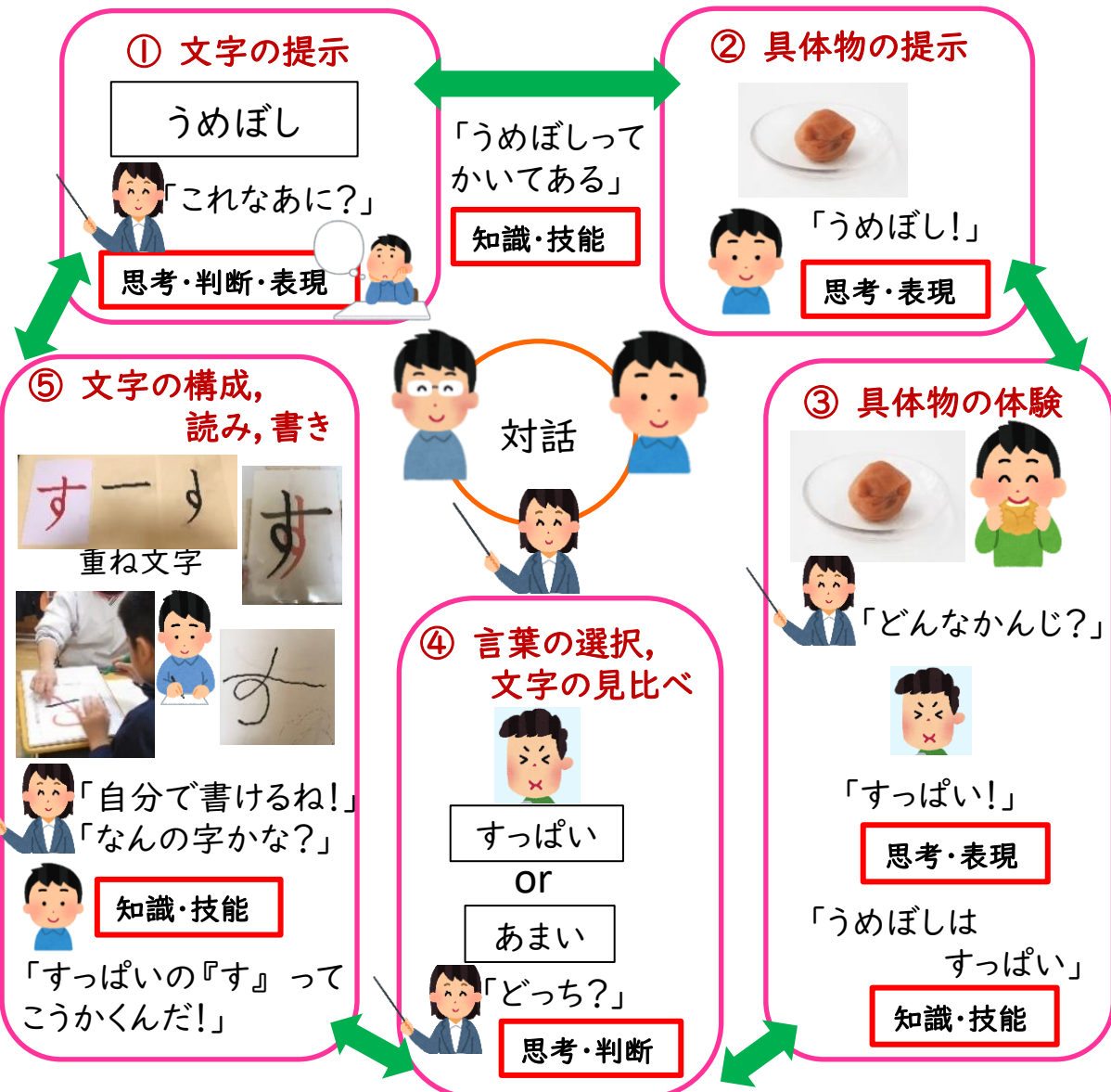
大学の先生からのアドバイス

○具体的経験からの語彙の獲得は大切な着眼点。体験から得たイメージを表現することでイメージは豊かになり、言語感覚が育まれる。

4 授業の実践

学習活動の流れ図(「うめぼし」を例に)

基本的に①から⑤の流れで進めるが、逆方向のやりとりも行うことでイメージや知識の定着を促す。



5 成果と考察

- 「がんばる」「楽しかった」の発言 (主)
- 進んで書こうとする姿→文字の構成への気づき(「Iが入ってる」「こがある」)により、文字を見て捉える力の向上。(主 知)
- 読める平仮名が増えた。

読める平仮名の数の変化(4月→1月)

5年 Aくん 4 → 23

6年 Bくん 5 → 27

書く活動の継続で、字音と字形のマッチングが進んだのではないかな。

学級担任による変容の見取り



- 1文字に1音韻の理解 (知)
- 生活場面での文字への着目 (知 思) →見つけては読む、文字で判断
- なぞり書きの上達、一人での運筆 (知)
- 細かい作業への持続力

主体的な学びを支える授業のアイテム

実体験による強い印象

授業の流れのパターン化

生活に即した想起しやすい題材

書けた!読めた!成功体験

教師、友だちとの伝え合い、喜び合い

6 課題

- ・子どもが言葉を整理しやすく覚えやすい授業計画(取り扱う言葉の整理)
- ・学習内容の偏り
- ・客観的なアセスメントと評価